

## 令和5年度 病害虫発生予察 注意報 第2号

令和5年8月8日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

- 1 対象病害虫 いもち病（穂いもち）
- 2 対象作物 普通期水稻
- 3 対象地域 県内全域
- 4 発生面積 多い
- 5 発生量 やや多い
- 6 発表の根拠

(1) 7月31日～8月3日に実施した巡回調査では、葉いもちの発生圃場率、平均発病度ともに平年よりやや高かった。

発生圃場率：47.5%（平年：38.9%、前年：40.0%）

平均発病度：5.8%（平年：4.5%、前年：3.2%）

(2) 農業研究部の予察田（豊後大野市三重町赤嶺）における8月4日の調査で葉いもちの発生は、ひとめぼれで発病株率は平年より高く、平均発病度は平年並であった。また、ヒノヒカリで発病株率、平均発病度ともに平年より高かった。

発病株率

ひとめぼれ 100%（平年63.8%、前年84.0%）

ヒノヒカリ 94.7%（平年65.8%、前年48.0%）

平均発病度

ひとめぼれ 25.0%（平年25.7%、前年84.0%）

ヒノヒカリ 23.7%（平年16.6%、前年4.8%）

(3) イネ葉いもち発生予測モデル（BLASTAM）によると各アメダス観測地点での葉いもち感染好適条件や準好適条件は、7月上旬に県内広範囲で感染好適日が出現している。また、7月中下旬には県内広範囲で準好適条件も出現しており、葉いもちの多発生につながったと考えられる（表1）。

(4) 本病は、冷涼、少照条件が発病に好適であり、特に、出穂期と曇雨天が重なった場合には、葉いもちが伝染源となり、穂いもちが多発すると予想される。福岡管区気象台が8月3日に発表した1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多く、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は、平年並が30%であり、少ない確率が40%と予想されている。

## 7 防除対策

- (1) 葉いもちの発生が多い場合は、直ちに防除を行い、穂肥を控えめに施用する。
- (2) 穂いもちの防除は、穂ばらみ期と穂揃期の液剤または粉剤による2回散布、あるいは、出穂約2週間前の粒剤施用と穂揃期の液剤または粉剤散布を基本とする。出穂期を見極め、防除適期を失しないよう注意する。
- (3) 穂肥の過剰投与は、本病の発病を助長させるため、注意が必要である。
- (4) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）に注意する。

（ホームページアドレス <https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>）

